



埼玉県議会議員

あらい 一徳

平成25年9月
発行：あらい一徳
あらい一徳県政調査事務所
〒364-0031 北本市中央1-81
Tel.048-594-1600 Fax048-594-1602

県政調査事務所は、月～金のAM9:30～PM5:30に
開設中。ご意見ご要望をお寄せください。

安心、安全で豊かな暮らしの実現を目指して

救急医療体制の充実や雇用対策の強化のために 平成25年6月定例会

平成25年6月定例会が、6月10日から同28日まで19日間の日程で開かれました。

本定例会では、救急医療体制の充実を図ることなどを主眼に、33億6千万円を追加する本年度一般会計補正予算案や、埼玉県青少年健全育成条例の一部を改正する条例案など知事提出の15議案を審議しました。

特に、一般会計補正予算案では、**救急医療体制の充実策**として、救急隊へのタブレット端末導入や救急医療情報システムの機能強化のための費用を盛り込んだほか、雇用対策の強化策では**緊急雇用創出基金**を活用して雇用創出事業を行うための予算が組まれました。

私は慎重審議のうえ、そうした諸施策の一日も早い実行により、県民の皆様の安心、安全で豊かな暮らしが実現できることを願い、各議案に賛成いたしました。

このほか、議員提出の議案では、**警察官の増員**や、**幼児教育の無償化を求める意見書**など5議案も可決しました。

あらい一徳県政報告第7号では、この6月定例会を中心に、日々の県政活動をご報告申し上げます。

委員会での 私の質疑と提言

6月定例会において、私が副委員長を務める警察危機管理防災委員会では、近年増加傾向にあるサイバー犯罪や街頭犯罪、振り込み詐欺などの防止、抑止対策について審議を行いました。

今定例会では、これらの諸経費として、一般会計補正予算案に、警察費5億5900万円が追加されました。

審議では、振り込み詐欺防止のための対策などが議題となりました。県警察本部によると、高齢者を対象とした防犯講話や振り込み詐欺ミニテストなどを行って被害防止の意識付けを行っているほか、振り込み詐欺被害防止コールセンターを設置し、現金を犯人に直接手渡す「手交型」など最近の手法について、防犯指導や注意喚起を行っているとのこと。また、金融機関とも連携し、水際防止対策を強化しているとのことでした。

振り込み詐欺は近年、悪質、巧妙化が進んでおり、高齢者が被害に遭いやすい傾向が強まっています。このため、私は、県警察本部に対して被害防止に向けて、関係機関との連携を強めるなどして、対策を一層強化・推進するように求めました。なお、皆様方におかれましても十分に注意されるようお願い申し上げます。

また、緊急経済対策特別委員会では、現在の県経済の動向と経済・雇用対策について、審議が行われました。

私は大きく2点、県の施策について質しました。

一つは障がい者雇用についてです。県内企業の障がい者雇用率は全国39位と低いのが現状です。5年後には

改正障がい者雇用促進法により、精神障がいの方の雇用が義務化される中で、どのように企業側に雇用を促していくか、という点です。

もう一つは、女性の就業支援です。県では、女性の力を活用して社会を盛り立てていくとする埼玉版ウーマノミクスを推進していますが、そもそも女性が働く場を創出していかないと絵に描いた餅となってしまう恐れがあり、企業での女性が働く場をどう開拓していくのか、ということ。私からの質問に対し、障がい者雇用については「精神障がいを持つ方は、服薬などの課題はあるが、高い能力を持つという特徴がある」としたうえで、「雇用開拓員が企業を直接訪問して、精神障がい者の特徴を十分に周知し、雇用の働きかけを行う。また、障がい者雇用サポートセンターや職場定着支援センターによる取り組みで、安心して働き続けられるよう支援していく」との回答を得ました。

また、女性の就業支援について県は「女性を雇用したり登用したりすることで、いろいろな議論が生まれ、新商品の開発など新たなビジネスチャンスが生まれている」とし、「女性が働きやすい職場環境づくりには、経営者の意識改革が何よりも重要である。今後行う研修会などで経営者や管理職層の意識改革を進める。また、女性の持つ技術や能力を生かし、起業することも一つの働き方であり、起業支援の強化を図っていききたい」との回答を得ました。

特別委員会を締めくくる意見・提言で、私は「精神障がいを持つ方の能力を最大限生かせるように、雇用の働きかけに一層努めること」「女性のパワーを生かす上で、働く場の創出が不可欠であるので、経営者らの意識改革に一層努めること」を申し入れました。

地元企業への 受注機会拡大を知事に要望

過度な受注競争解消へ！

6月定例会最終日の6月28日、私も所属する県議会中小企業を支援する議員連盟が、建設業界の受注環境向上に関する要望書を上田清司知事に提出しました。

今回の要望は、地域の安心・安全を支え、災害対応で重要な役割を担う県内建設業者が、急激な公共事業の削減や景気低迷などによる投資縮小などで、過度な受注競争にさらされるなど厳しい経営環境に置かれている現状を踏まえたものです。

要望では、地元重視の発注方式の配慮として、地元企業の持続的かつ健全な経営が可能となるよう、地元企業の一層の受注機会拡大と適正価格による受注が図られるよう求めました。

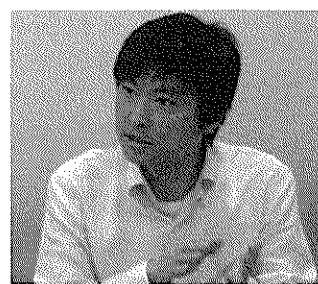


中小企業を支援する議員連盟が受注環境の向上に関する要望書を知事に提出

安心・安全で 豊かな暮らしの実現のため 同僚議員と勉強会を発足

6月定例会では、私を含めた自民党県議団1期生が中心となり、県民の安心・安全で豊かな暮らしの実現に向けた条例の制定を目指し、2つのプロジェクトチームを発足させました。

一つは、**がん対策**に関するチーム。もう一つは**商店街**振興に関するチームです。



現在、定期的な勉強会を開いて、現状の問題、課題などを分析しつつ、メンバー間での共通認識を深めていきます。

まず、がん対策ですが、現在、県民の死に至る疾病として、がんが最も多くなっています。その対策が県民の生命や健康にとって重大な問題になっている現状に鑑み、総合的ながん対策を、県や医療従事者、県民が一体となって推進していくこととするものです。

次の商店街振興ですが、現在、全国展開の大型店舗などが出店後、地元商店会に加入しないケースが増えており、このことが商店街のさまざまな活動の低下を招き、中には商店街の存続すら危ぶまれるという事態に陥っているケースもあります。

地域経済の活性化やマチのにぎわいを創出することを念頭に、商店街に元気を取り戻すべく、例えば、商店会への加入促進などを図っていくこととするものです。

今後のスケジュールですが、がん対策は12月定例会で、商店街振興は来年2月定例会で、議員提案の形で条例案を提出すべく準備を進めます。

他自治体の先進事例を参考に県政に反映を

進行中の取組から学ぶ！

私が副委員長を務める警察危機管理防災委員会は5月27日から29日の3日間、宮崎県、鹿児島県を視察し、警察行政や災害時の取り組みなどについて調査を行いました。

このうち、鹿児島県庁では、鹿児島県地域防災計画について聞き取り調査を行いました。同県は今も噴火を続ける桜島のほか、九州電力の川内原発を抱えるなどしており、災害時の万全の対策が求められています。2011年春の東日本大震災を踏まえ、昨年度に同計画の抜本的な見直しをおこなったとのこと。

例えば災害予防に関する修正では、医療体制の充実や防災知識の普及啓発、自主防災組織の育成強化、企業防災の促進などで新たな項目を設け、県民の安全・安心な暮らしの実現に向けた諸施策の充実を図ったとのこと。

今後、想定される大地震などを踏まえ、埼玉県民の安全を確保するため、視察で得た成果を県行政の施策に反映させるべく積極的な提言を行います。

また、緊急経済対策特別委員会は7月29日から31日の3日間、山形県、宮城県を視察し、被災地の地域経済の実情を調査してきました。

このうち、東日本大震災で壊滅的な打撃を受けた宮城県女川町に本社を置く水産加工製造の『高政』を視察し、高橋正典社長に聞き取り調査を行いました。



東日本大震災後1人の解雇者も出さなかった宮城県『高政』

同社によると、震災前にいた120人の従業員を、震災後、1人の解雇者も出さず、逆に新工場の落成などに伴い、200人にまで従業員数を増やしたそうです。

当時は町内の企業で解雇が続出したそうですが、高橋社長は「従業員にアンケートを取ったら、全員が辞めたくない、と。人生設計のできる会社でありたい、というのが社員の理念なんです」と説明してくれました。被災者の生活を考慮し、震災後の新たな雇用も被災者を優先したとのこと。

昨今の不況下で、埼玉県内でも雇用問題は大きくクローズアップされています。どのように雇用を開拓し、維持していくのか、大いに参考にしたいと考えています。

圏央道と上尾道路の開通、来年度に

期待の埼玉循環高速道！

多くの市民のみなさんからの要請を受けて、一日も早い開通を固く要望してきた2つの道路の開通時期が、来年度内になることが決

まりました。4月には、太田昭宏国土交通大臣に直接お会いし、早期開通を強く要望したのですが、地元への熱意が結実したものと考えています。

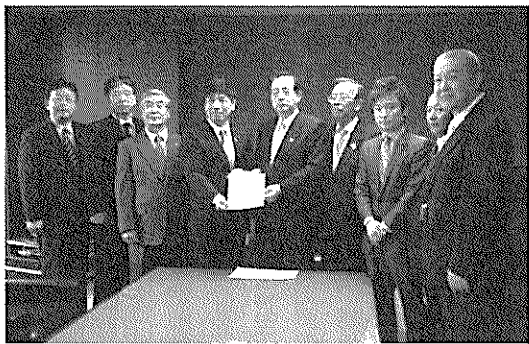
一つが圏央道(首都圏中央連絡自動車道)の埼玉区間で、桶川北本インターチェンジ(IC)～白岡菖蒲IC間と、久喜白岡ジャンクション(五霞IC)です。

この開通によって、圏央道の埼玉区間がすべて開通することにも、都心から延びる東北道と圏越道、県南部を横断する外環道をつなぎ、「埼玉循環高速道」が完成します。物流の利便性などが各段に向上することが期待されています。

もう一つが、国道17号バイパス・上尾道路のうち、I期区間と呼ばれるさいたま市西区～圏央道・桶川北本IC間です。

この開通により、国道17号の慢性的な渋滞の緩和とともに、災害時の緊急輸送道路としての役割も期待されています。

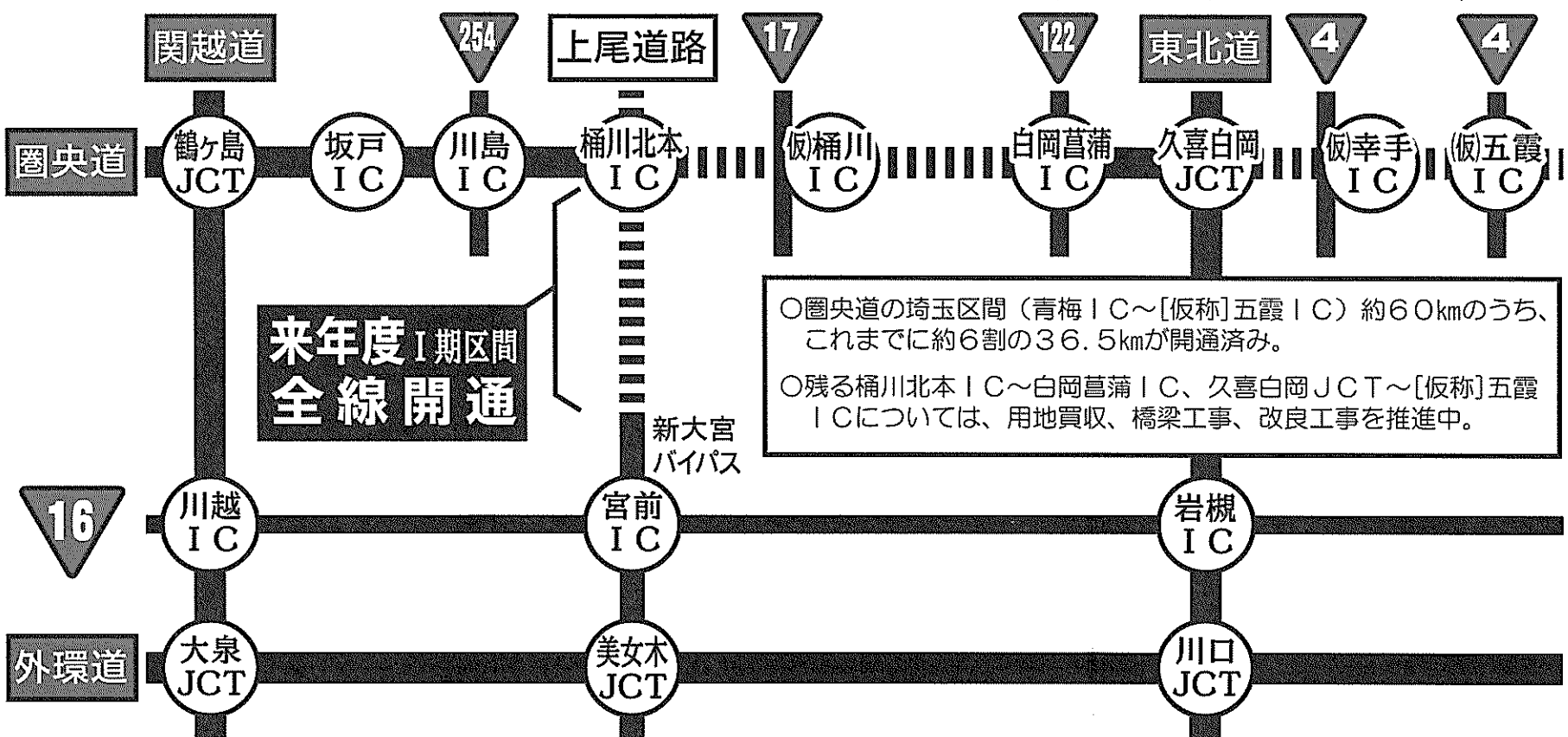
I期区間(桶川北本IC～鴻巣市箕田間)については事業化がすでに決定しています。開通時期は未定ですが、一日も早い開通に向けて、引き続き国などに対して積極的な要望活動を行っていくことを考えています。



全区間の開通に向けて積極的な要望活動を行なう

埼玉循環高速道

来年度開通



皆さんとともに より良い ふるさと 故郷づくりを

グループ懇談会を開きませんか？
私がお伺い致します！

北本市や埼玉県が抱える課題や、自分たちが住む故郷の将来像について、膝を交えて語り合いませんか？

現在の日本は、長引くデフレ不況などで経済が停滞しています。そこからの脱却は至上命題となっています。また、埼玉県に目を転ずると、今後、急速な高齢化社会を迎えます。増加する一方の医療費をどうするのかなど、課題は山積しています。そうした中であって、これからのまちづくりはどうあるべきなのか？ 市民一人一人が真剣に考えなければならない時代に来ているのではないのでしょうか？

市民の皆さんお一人お一人の力を借りながら、これからのまちづくり、埼玉づくりを進めていきたいと考えています。そのためにも、今どんな課題が存在するのか、そして、どんなコミュニティを創り出していくべきなのか、市民の皆さんと共通認識を持てればと考えています。

私あらい一徳は、それぞれの地域で、市民の皆さんと話し合う懇談会を開催したいと考えています。団体、近隣の方々、サークルなどのグループ、個人でも結構です。直接、私が出向きます。懇談会をご希望の市民の皆さん、ぜひご連絡ください。お待ちしております。Tel.048-594-1600 Fax048-594-1602 あらい一徳県政調査事務所